

フランス研修に行ってきました！



2016年1月10日（日）
～1月15日（火）
4泊6日間

（写真）

- モンサンミッシェル
- エッフェル塔
- シャルトル大聖堂
- シャトー・ド・カニジー

ルックJTBのフランス研修旅行に参加させていただきました。

昨年11月のテロ事件以降、渡航に関して不安を持つ方も多いかと思いますが、特に厳重な警備体制が見受けられるわけでもなく、穏やかな街の様子を実感してきました。

今回はパリを拠点にシャルトル、モンサンミッシェル、ノルマンディーの古城、ベルサイユを視察してきました。

● シャルトル大聖堂 <世界遺産>

2本の尖塔が印象的な外観で、大聖堂内のステンドグラスのブルーの輝きがとてもきれいでした。

4月末から10月末にかけては「光のシャルトル」と称して、イルミネーションやマッピングで飾る光と音のアートイベントが開催されます。



● モンサンミッシェル <世界遺産>

パリから片道約5時間。日帰りもできますが、時間の移ろいで見え方の変わる姿を楽しむためにも、宿泊されることを強くおすすめしたいと実感しました。リーブル・ドー（結婚承認証）やフォト・ウェディングもご案内できますので、ハネムーン様にはとくにおすすめです。

10年かけた湾の再生工事も完了、対岸とは1本の橋のみで繋がって景観もさらに良くなっています。対岸からは無料のシャトルバスで行き来します。



● シャトー・ド・カニジー

外観の印象は物語に出てくるようなお城そのもので、まるで貴族になったような気分で、贅沢な時間を過ごせると思いました。

全 14 室のお部屋は内装がそれぞれ異なり、どの部屋も雰囲気があって素敵でした。

今回は視察のみで滞在できなかったのがとても残念です。

ルック JTB のツアーでは、このノルマンディーの古城を全館貸切でご案内していますので、皆様にはぜひ優雅な滞在を体験していただきたいと思っております!!

滞在中は、館内を見て回るだけでなくアフタヌーンティや広大な庭園散策で、ゆったりとお過ごしいただけます。



● ベルサイユ

ベルサイユ宮殿<世界遺産>は本当に広くて、庭園を眺めてから宮殿入場 2 時間では足りないくらいに感じました。入口ではセキュリティーチェックが実施されているので、安心して宮殿見学に集中できます。

特にオンシーズンは混雑すると思うので、荷物はコンパクトにまとめて、歩きやすい靴で、できればイヤホンガイドで案内を聞きながらの観光をおすすめいたします。

パリから約 20 km、高速鉄道で約 30~40 分で日帰り圏内ですが、宿泊すると宮殿だけではなく魅力をじっくり見学できると思います。宮殿の外の庭園や離宮散策、マルシェ（朝市）見学にも興味がわきました。

● フランスあれこれ

これからご旅行を検討されている皆様に、旅の情報としてお役に立てれば嬉しく思います。

フライト

往路は KLM オランダ航空のアムステルダム乗継。復路はエールフランスのパリから直行便で帰国。直行便で 12~13 時間。アムステルダムでの乗継は難しくなく、どちらの航空会社も日本語も対応の機内エンターテイメントが充実しているので、退屈することなく過ごすことができました。



食べ物

おいしいものにたくさん出会って幸せでした。カフェ~ミシュラン星付きレストランまで、シチュエーションに合わせて楽しめます。ルック JTB ラウンジでは、レストランの予約・ミールクーポンの購入ができるので、言葉や料金に不安のある方はぜひご利用下さい。とくにパン（バゲット）、乳製品（チーズやヨーグルト）、スイーツ（マカロンやチョコレート）、ワインなどは種類も多く本当においしかったです。自分の気に入るお店を見つけてみるのも楽しいと思います。モンサンミッシェル名物のオムレツやエスカルゴなど、ご当地ならではの名物料理も味わっていただきたいです（写真）。



ショッピング

年 2 回行われるセール（ソルド）期間中でした。

夏は 6 月下旬、冬は 1 月初旬から 5 週間の期間は、どのお店も 30~70% オフになるというので、憧れのブランド品やコスメ、おしゃれな雑貨や生活用品まで、思いっきり買い物を楽しむのも旅の醍醐味だと思います。

持ち物（あると便利と感じたもの）

- ・ 通貨はユーロ、日本で両替しておくことをおすすめいたします。クレジットカードも便利ですが、日本出発前に必ず暗証番号を確認しておきましょう。
- ・ 防寒具と雨具は必携です。冬は雲が広がりやすい上に風が強くと吹き、観光の途中でも急に雨が降ったりやんだりと変わりやすい天候でした。折りたたみ傘だと風に煽られてしまうため、防寒も兼ねたレインコートや、底冷えの寒さ対策として、マフラー、手袋、耳あて、ホッカイロがあると重宝します。ちなみにホッカイロはフランスにはありません。貼って飛行機に乗ろうとすると危ないものと勘違いされる恐れがありますし、説明がうまく伝わらないと思いますので、スーツケースに入れてご持参して下さい。
- ・ 夜の観光にペンライト、細かい彫刻や天井のステンドグラスを鑑賞するためのオペラグラスがあると重宝すると思われました。